

【園目標】 はぐくみの輪 ふれあいの輪 丈夫な体で思いやりのある子 元気な子・考える子・優しい子	【前年度の成果と課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・横のつながりがもてるように、学年内の交流を早くから行い、子ども同士の関わりを深めていく。 ・クラスや学年の保育者間で話し合う時間を確保し、互いの保育観を共有して認め合いながら保育の方法を探る。 ・公開保育の重要性を認識し、公開する保育者の負担過多にならないよう、普段からの保育を見合う機会を増やす。 ・保護者に遊びの過程や保育の意図が伝わるように、写真配信の内容を検討する。
--	--

4段階評価 ○保育者 ☆関係者 ●課題

観 点	短期目標	自己 評価	保護者 評価	評価及び意見の概要
子 ど も へ の 保 育 ・ 教 育 の 充 実	指導計画の作成・改善 ねらいと内容に沿った反省考察を行い、環境の再構成をする	3.4		○ねらいを意識した反省、考察を週案に記載し、次週の課題を明確にすることができている。それに伴い随時環境の再構成を行いながら保育する保育者が増えている。 ☆活動を通して付けたい力を明確にすることが大事であるが、どの活動も「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識し、ねらいが明確になっていた。 ●反省、考察をし課題を明確に記載するが、それを環境の再構成に繋げていくことに苦慮している保育者が多い。また、クラス活動を継続して行い、学びの連続性を意識していきたいが、行事等で途切れてしまうことも課題である。まずは週案にクラス活動欄を設け、日々の遊びを記載していき、週の課題から環境の再構成に繋がる記載ができるようにする。
	健康な体づくり 室内での時間を利用した体づくりの推進 (元気な子)	2.7	3.9	○活動と活動の合間や移動時間に動物の真似っこや、両足とび、ジャンプアタック等を行うことで、保育者は保育の幅が広がり、子どもたちは楽しみながら体づくりに繋がった。 ○園内の広いスペースを利用した体づくりについて職員間で話し合う時間を持ち、取り入れることができた。 ☆園庭や遊戯室で意図をもって運動遊びを仕組み、楽しく活動している。 ●評価の数字が前年度から大きく下がったことから、4つの指標項目をすべてを室内遊びにしたことが、負担であったと思われる。室内遊びと戸外遊びをバランスよく取り入れられるような指標にする。
	社会的発達 人と関わる楽しさを味わい、思いを伝え合う活動の充実。 (優しい子)	3.2	3.9	○サークルタイム導入により、子どもたちは友達への気づきが生まれ、励ましたり、助け合ったりする姿が見られた。(幼児) ○未満児の思いを伝え返すことで、ありのままを受け入れ寄り添っていくようにした。後半は機を捉えサークルタイムをもつようにし、未満児なりの思いを聞く場となった。(未満児) ☆子どもにとっての最大の環境は先生である。まなざしが温かいことがよい。 ☆保育の中で振り返りの時間を持ち、子どもの位置づけ価値づけがきちんとなされていた。 ●異年齢交流を意図的に行うことが難しかった。前期はクラス単位の活動をメインとし、子どもが落ち着いてきた後期にはリーダー会にて定期的な異年齢交流を位置付け仕組んでいく。

	精神的発達	子どもが試行錯誤しながら主体的に遊びが展開できる環境構成の工夫。 (考える子)	3.4	3.8	<p>○子どもの声を拾うことに意識を向け、子どもの姿から環境の再構成を行えるようになった。子どもが遊びを選択できるよう工夫した。</p> <p>○子どものペースに合わせた随時保育を心掛けたことで、子ども自ら気持ちを切り替え動くことができた。(未満児)</p> <p>☆子どもが生き生きとし活動に浸っている姿は、時間をかけて環境を整えているからである。</p> <p>●子ども主体の保育を模索するが、保育者の意図を先行しすぎてしまうことが多く、難しさを感じる。常にドキュメンテーションや週案などで、保育を可視化する作業により、子どもの思いと保育者の願いをすり合わせ方向づけていく必要がある。</p>
子育て	多様なニーズに対応	保育者間で情報や思いを共有し、可能な限り一人一人に合った援助をする。	3.6	3.8	<p>○関係機関やアドバイザーとの連携ができる環境にあるため、悩みや迷いを解消できる機会が増えた。</p> <p>☆複数の先生が、個々に応じた対応をされている。</p> <p>●特別支援コーディネーター、統合保育リーダーをまじえた話し合いの機会を定期的にもち、情報共有する。</p>
支援の充実	保護者・地域との連携	保護者への情報発信は、遊びの過程や保育の意図を伝える。	2.9	3.8	<p>○ドキュメンテーションを作成することで、保育を可視化することができ、次に向かうべき方向性が明確になった。また、子どもたちは視覚的に遊びを捉えることで、自分の遊びだけでなく他児の遊びへの興味に繋がった。</p> <p>●作成にとどまらず、ねらいや意図が保護者に伝わるよう、文章や吹き出しで具体的かつ端的に伝えるようにする。</p>
資質・専門性の向上	研修研究	職員間で子どもの姿や保育について話し合い学び合う時間と場所を確保する。	3.2	3.7	<p>○全クラス公開保育を行うことで、学びを自分のクラスに取り入れたり、環境を模倣したりして、保育の視野を広げることができた。</p> <p>●学びの機会は日常にある。常に意識をもって他保育者の保育を見ることが学びに繋がるため、キャリアアップしていこうとする保育者の意欲が大切である。</p>

【次年度に向けて】

- ・週案日誌にクラス活動欄を設け、継続的な子ども主体の活動を位置付ける。
- ・クラスや学年の保育者間で話し合う時間を意図的に確保し、互いの保育観を共有して認め合いながら、より良い保育の方法を探る。～語り合おう 話し合おう～
- ・学年ごとに育てたい力を明確にし、適切な援助をすることで、年齢に応じた「人と関わる力」を育成していく。
- ・遊びの過程や保育のねらい・意図が保護者に伝わるように、月1回ドキュメンテーションを作成、配信をする。